

『戦争を知らない子供たちを知らない子供たち』

作 阿野一人

登場人物

大野サユリ どころのご令嬢にして財閥・大野洋行グループ総裁の妻。平和主義者。
大野頌一郎 サユリの息子。正義と公正を大切にする青年。
高山昭男 元・大野家の書生にして現在は将校。大野家の利益のために働く。
佐千屋まれ 頌一郎の婚約者。元・大野家の使用人。
役人 職務に忠実な人

※文中に「」がある場合は、次のセリフで遮る。

「」以降、任意のタイミングで遮ってよいが、セリフ終わりまで遮らないのはNG

港。大野洋行グループ傘下のコンテナヤード。

数多く積み上げられたコンテナの中の一つ。

内部はほぼ空。仕切られた奥にもスペースがある。

ニュース速報が聞こえてくる

N 臨時ニュースです。政府は国会前の警備に国防軍を投入することを決定しました。現在国会では、令和30年施行の国家総動員法制定が議論されており、大規模な反対運動が続いています。過激化する抗議活動への対抗措置だと説明されていますが、民主的なデモンストレイションに対して軍が出動することは、戦後初の事例となります。この決定に対し、野党前進党の大泉代表は「戦争を推進するための強行措置であり、民主主義国家として絶対に認めることはできない」とコメントしています。

高山とサユリが入ってくる。隠密作業のための服装をしている。

死んだように動かない頌一郎を運んでいる。

高山 気を付けてくださいね。暗いですからね。(何かにぶつかると)

サユリ ちょっと！大事に扱いなさいよ！

高山 失礼しました。もう少し進んだら一回下ろしましょう。

サユリ 戦争さえ、戦争さえなければ……

高山 (頌一郎を置いて) 少々お待ちを。

高山、奥のスペースへ消える。

サユリ ……可哀想な頌一郎さん

奥で何かをひっくり返す音が鳴る

サユリ なんなの!?

灯りがつく

高山が戻ってくる。

高山 失礼いたしました。(ペットボトルの飲み物を差し出す)

サユリ (頌一郎が) 起きちゃったらどうするのよ!

高山 大丈夫です! 薬でぐっすりのはずですから。あと半日はぐっすり。

サユリ (周りを見渡して) ……まるっきり倉庫ね

高山 倉庫というか、コンテナですから

サユリ こんなところに寝泊まりなんてしたことないわよ

高山 贅沢言わないでください。これでも頑張ったんですから

サユリ どこがよ

高山 奥はそれなりに住めるようになってます。このへんには、貨物を色々置いておくんです。万が一の時にも、誤魔化せるように。

サユリ ……公安警察が来るってこと?

高山 亡命するんですから。可能性は。

サユリ ……

高山 まあでも万が一、です! 今日は警察も国会に釘付けですから、こんなところに来ませんよ。

サユリ だいたいけど

高山 もう数時間で出航です。で、船旅二週間で亡命成功。

サユリ 主人は?

高山 別ルートで現地入りします。資産も既に2割程度は移してありますから、なに不自由なく暮らせるはずです

サユリ 2割しかないの?

高山 普通なら、身一つですもんなんです亡命ってのは。それでもサッカーチーム買えるくらいはありますんで

サユリ あなた、着服してないでしょうね

高山 なに言ってるんですか。恩返しのご奉仕ですよ?

サユリ どうだか。がめつくなくなったって聞いているわよ?

高山 金目当てじゃできませんよこんなこと。私は軍人ですよ? 亡命の手引きしたなんて知れたら、死刑ですよ死刑。銃殺刑。

サユリ ……ごめんなさい。ありがとね

高山 いいんです! 大野家あつての私ですから! そのかわり、向こうでも商売、手伝わせてく

ださいよ!

サユリ あなたはいつ来るの?

高山 2年後くらいには

サユリ そんなに? 早く逃げないと危ないんじゃない?

高山 ですが、亡命したいって方は他にも沢山いるので

サユリ そう。それは助けてあげなきゃね

高山 そんな危ないことしませんって。ただ、ちよつと目をつぶってるとね、なぜか誰かが金塊やダイヤを置いてつてくれるんですよ

サユリ やっぱりがめついじゃない!

高山 いやー、こんなに稼げるとは知らなかったー

サユリ 軍人が負け戦で焼け太りね。この国はつくづく腐ってるわ

高山 いいじゃないですか。人を殺して勲章貰うより、人を生かしてお金もらったほうが。

サユリ それは……そうだけど

高山 私は平和主義ですから。奥様と同じ!

サユリ 一緒にしないで。でも、欲張って死んだらダメよ? 必ず向こうで会いましょうね

高山 ありがとうございます。さ、奥にはベッドもありますんで。運んじやいましょう!

サユリ よし! あーあ、二週間、水平線を眺める生活か

高山 窓なんかありませんよ?

サユリ え!? 困るわよ! 船旅でしょ? 酔ったらどうするのよ!

高山 酔い止め用意してありますから

サユリ ダメダメ! 薬が効きにくいの子。

高山 え?

サユリ 小さい頃とかね、酔い止め飲んでても吐いちゃって。二週間も船の上なんて／耐えられないんじゃないかしら

高山 そんなことより、メンタルの方を心配してあげてください

サユリ メンタル?

高山 寝て起きたら国を捨ててた、なんてショックですよ。

サユリ 残ったら軍隊に取られちゃうじゃない! この子に戦えて／言うの!?

高山 わかってます! でもほら、本人は残りがつてたわけですから

サユリ 子どもなのよ。命より大事なものなんてあるわけないのに

頌一郎 (飛び起きて) 君のためなら死ねる!

サユリ !?

頌一郎 (寝ぼけながら) 愛してるんだ! 君を! この国を! 僕は……あいして……

頌一郎、寝る

高山 ……恋人も、置いていくわけですし

サユリ ちよつと会わなきゃすぐ忘れるわよ。あんな女。

高山　　そうですね……

サユリ　　そうよ。

高山　　連れてってあげればいいのに

サユリ　　冗談じゃないわよ！　そもそも、あの女のせいで国を守るとか／愛国心がどうのとかいいだすようになっちゃったんだから

高山　　わかりましたわかりました。さ、運んじやいましょう！

サユリ　　よし！　二週間、ネットフリ三昧の生活か

高山　　ネットフリなんか観れないですよ

サユリ　　え！？　どうするのよ2週間も（退屈で死んじゃう）！

高山　　我慢してください。プレステ7あるんで。

サユリ　　スマホでなら観れる？

高山　　観れませんって！　この中は電波が遮断されています！

サユリ　　え！？　（スマホを観て）ホントだ。圏外。

高山　　当たり前じゃないですか。繋がってたら誰かいるのバレちゃいますから

サユリ　　そうなの？

高山　　そうですね。逮捕されたくないでしょう？

サユリ　　……

高山　　まあまあ、それだけ万全の体制だってことです！　私の指示に従っていただければ、絶対に見つかることは無いですから！

サユリ　　信じるわよ？

高山　　はい！　さ、運んじやいましょう。

まれが入ってくる

まれ　　頌一郎さん、いるー？　（サユリに気づいて）お義母さま！？

サユリ　　（高山に）見つかったじゃない！

まれ　　（倒れている頌一郎を見つけて）頌一郎さん！？

異変を察した役人が入ってくる

役人　　どうしました！？

まれ　　頌一郎さんが！

役人　　（頌一郎に気づき）あっ！

サユリ、奥に逃げようとする

役人　　（サユリに銃を向け）動くな！

高山　　（組みついて銃を制し）貴様、誰に向かって（銃を向けているんだ）！

高山、役人を制圧する

役人 (まれに) お嬢さん逃げて! 110番を!

高山 まれさん! 私です!

まれ 高山さん!?

役人 ああ?

高山 (役人に) 陸軍参謀本部戦争指導課長の高山である!

役人 何を(言ってるんだお前は) …?

高山 (身分証を見せる)

役人 高山大佐 …! これは、大変失礼いたしました!!

高山 うむ。

まれ 高山さん! 頌一郎さんは(どうして倒れてるんですか) …?

高山 あの、それは

サユリ お酒飲み過ぎちゃって!

まれ お酒 …?

高山 (役人に) 君、所属と名前は?

役人 内務省中央兵務局の神戸直美と申します

高山 なるほど。なにをここに?

役人 大野頌一郎さんの召集令状をお持ちいたしました!

サユリ 召集!?

役人 はい。大野さんから軍に志願する届出がありました

サユリ 何かの間違いでしょう!

まれ 間違いじゃありません。志願するっておっしゃってました

サユリ あなたがまた変なことを/吹き込んだんでしょ

まれ 変なことってなんですか! 頌一郎さんはこの国を守ろうって、/ご自身で志願を決めたんです。

サユリ そんなわけないでしょう! 負けるに決まってるのに!

役人 貴様! 国家の一大事に/そのような士気をくじくようなことを言うとは

高山 やめたまえ!

役人 しかし

高山 奥さまは、大野財閥の会長夫人として、グローバルな視点からのご意見をお持ちなのだ。口を慎め!

役人 会長夫人 …? 大野サユリさまでいらっしゃいましたか!

サユリ …

高山 わかったら、下がりました

役人 しかし、挙国一致体制が求められる今、大野財閥の奥さまがそのようなお考えでは/まずいのでは

高山 だから私がここにいるんだ！ それくらい察しろ！

役人 失礼いたしました！

高山 頌一郎さんの令状は、私が預かっておこう

役人 え、しかし……（庄に屈して）わかりました（令状を渡す）

高山 それから、ここで見聞きしたことはくれぐれも内密に。

役人 ……上長にもですか？

高山 そうだ。君はいつもの通り、大野氏のご自宅で頌一郎さんに令状を手渡した。いいね？

役人 はあ……

高山 （出口へ促し）あ、そうだ。国会の方はどうなってる？

役人 反戦派の連中が頑張ってます。国家総動員法はまだ先かもしれません。

高山 あ、そう。

役人 失礼いたします。

役人、出ていく。

まれ （頌一郎をゆさぶり）頌一郎さん！ 起きて！ 頌一郎さん！

サユリと高山、慌てて止める

高山 寝かせといてあげてください

まれ でも……

サユリ あの人、喋らないかしら

高山 今日一日は監視をつけます。で、明日には東部戦線に行ってもらいましょう

サユリ 東部戦線？

高山 よくあるんですよ。秘密を知ってしまった人が、なぜか激戦地の任務に就く。

まれ 秘密ってなんですか？

サユリ あなたは知らなくて／＼いいことです！

高山 あーあーあ、軍のね、ちょっとしたアレでね。

まれ 軍の？（サユリに）お義母さま！ とうとう戦争に協力してくださるのね？

サユリ しません！ そんなこと私の良心が許しません！

高山 （誤魔化す）という信念を曲げて、協力してくださるんです

サユリ しませんよ！

高山 することにしてくださいよ！

まれ どっちなんですか？

高山 えーと戦争に協力はしませんが、その、難民の！ 戦争難民のための支援を。

サユリ 難民？

高山 そうです。奥さまは、戦火に巻き込まれた人々の姿に、心を痛めておられますから。ね？

サユリ それは、そうですけど

高山 それより、まれさんはどうしてここが分かったんですか？

まれ ああ。(頌一郎のポケットからスマホを探り出して)GPSです

高山 GPS!？ そんなはずは! (電波遮断が機能していない原因を慌てて探す)

サユリ あなたそんなもの持たせてるの!？

まれ 違います! 頌一郎さんが自分から。

サユリ そんなわけないじゃない!

まれ ホントです! 私が寂しくないように、って!

高山 おかしい! ここでGPSが機能するはずはないのに

まれ あ、ね。ここ電波入らないですね

高山 え。じゃあどうやって(ここが分かったの)?

まれ それは、頌一郎さんの位置情報がここで消えたから、この辺かな?って。

サユリ ……

高山 ……

サユリ ……(高山をひっぱたく)

高山 いたい!

サユリ ぜんぜんダメじゃないのよ!

高山 だってだってそんな常に監視してるなんて/思わないし

サユリ あなたに命あずけてるんだからね!

まれ 命…?(登場人物、および客席に聞こえなくてOK)

高山 わかってますわかってます! もうほんとこれは想定外で

サユリ 想定外があったら困るって言うてるの!

高山 もう大丈夫ですから! もう絶対万全ですから

頌一郎 うーん

頌一郎、起きる

まれ 頌一郎さん!

サユリ 起きちゃったじゃないのよ!!

高山 えー……? そんなはずは……

頌一郎 あれ? まれさん?

頌一郎、フラフラである

サユリが支えに行くが、頌一郎はまれを頼る

まれ 大丈夫?

頌一郎 頭が……(痛い)

高山 あ、あっちにベッドありますんで

まれ ベッド……?

頌一郎、高山とまれに支えられて奥へ

まれ(声) なんですかここ!!

高山(声) まあまあまあ

高山、戻ってくる

高山 やっぱり連れてってあげましょうよ

サユリ 絶対いや!

高山 だってこれだけ色々知られちゃったら

サユリ 前線送りにすればいいじゃない

高山 そこには良心ないんですか?

サユリ 聞いたでしょさっきの! あの女は戦争推進派なの!

高山 今の子はだいたいそうですから

サユリ あーゆーのが変な政治家選んで、頌一郎さんまで感化されて……

まれ、戻ってくる

まれ 高山さん、これって亡命の……(準備ですよね)

高山 ……

サユリ (高山に) なんとかしなさいよ

高山 ……連れていきましよう

サユリ だからそれは/ぜったいにダメ

高山 それしかないですって!

サユリ !?

高山 まれさん。お察しの通りです。知られてしまった以上、あなたを外に出すわけにはいきません。このまま大野家のみなさんと亡命してください。

まれ できません

高山 そうおっしゃらずに

まれ みんなが戦ってるのに、自分だけ逃げるわけにはいきません

サユリ ほら、こういう女なのよ。連れていけるわけないでしょ

高山 (まれに) しかし、逃げないなら私はあなたを……

まれ 殺すなら殺してください

高山 え?

まれ 戦争が始まった時から、いつでも死ぬ覚悟はできています。

高山 ええ……

サユリ 頭おかしい

まれ お義母さまも、もう意地を張るのはやめてください！

サユリ 奥様、でしょう！

まれ 戦争反対だったのは知ってますが、この期に及んで逃げようだなんて

サユリ なにがいけないのよ！

まれ 恥ずかしくないんですか！ 高山さんも止めに来てくださってるのに！

高山 え？

サユリ 止めに？

まれ 違うんですか？

高山 いや、その……

まれ え、まさか…… 頌一郎さん！（奥の部屋に駆け込もうとする）

高山 そうですそうです！ 止めに来ました！！

まれ そう、ですよね。

サユリ ……

高山 ですが、ですが！ 奥様のご意志は固く、この高山、今日だけは軍人としての信念を忘れ：

…大野家に恩義ある一人の人間として、なにも見なかったことにしようかな、と。かくなるうえは、まれさんもご一緒に逃げていただければ。

まれ いやです

高山 そこをなんとか

まれ （サユリに）考え直してください。

サユリ なんであなたに／指示されなきゃいけないの

まれ 悪いと思わないんですか？ 高山さんがどんな思いでお義母さまを見逃すのか、わからな

いんですか？

サユリ どんな思いつて……

まれ 高山さんは軍人です。自分を捨て、命を捨てて国民を守ってくださいってる方です。その高山

さんに、お国を裏切る決断をさせたんですよ？

サユリ （高山に）耳が痛いわねえ？

まれ みてください！ この断腸の思いに苦しむお顔を！ この姿を見ても、なにも思わないんですか！？

高山 いいんです、まれさん。この高山、大野家への恩は山よりも高く海よりも深い。戦争が激し

さを増す中、大野家の皆様には安全な場所で平和に暮らしていただきたい、それもまた本心なのです。

まれ 大野家は亡命しません

サユリ あなたに関係ないでしょ！

まれ 私は頌一郎さんの婚約者です！ 大野家の一員も同然です！

サユリ 認めませんから。使用人の分際で。

まれ だいたい、頌一郎さんの立場はどうなるんですか！ お義母さまが亡命なんてしたら世間からなんて言われるか

サユリ 頌一郎さんも一緒に行くから

まれ そんなわけないです！ だってこのまえ志願したんですよ？ 軍に

高山 頌一郎さんもやはり、奥様の強い意志に心を動かされ、承諾されました

まれ うそです！

高山 本当です！ それで、そう、それでお酒をガッと煽って、「目が覚める前に、旅立ってくれ」と。

まれ ……

高山 ですから、まれさんも頌一郎さんと一緒に、このまま行ってください。

まれ ……

サユリ ……え？ 連れてかないわよ？

高山 奥さま！

サユリ なんて外国行ってまでこの女と暮らさなきゃいけないのよ

まれ 私だって行きたくありません！ そんな恥さらしなこと！

サユリ でしょ？ どうぞお残りください。お幸せに。

まれ 言われなくてもそうさせていただきます！ (奥に向かい) 頌一郎さん！ 行きましょう！

サユリ 頌一郎さんは私と行くのよ！

まれ 無理やり連れてく、でしょ！

サユリ 無理やりじゃないわよ！

まれ どうせ泣き喚いて無理やり納得させたんでしょ！ (高山に) そうですよね？

高山 もっと無理矢理かも…

サユリ 無理矢理洗脳してるのはあなたでしょう？

まれ はあ？

サユリ 愛国心だのなんだの言う子じゃなかったのに！

まれ その何がいけないんですか

サユリ 愛国心なんて妄想です！ 戦争のための道具です！ 国にすぎるしかない人間の／ための

ポルノです。

まれ 生まれた町や文化が好きなのは当たり前でしょう？

サユリ 教養がない人にはそうかもしれないわね

まれ 頌一郎さんは教養のある方です

サユリ あなたのせいで馬鹿になったっていつてんの！

頌一郎 やめてよ母さん！

いつの間にか頌一郎が起きてきている

高山 ええ……なんで(起きてこれるの?)

頌一郎 まれさんのことを悪く言わないでくれないかな

サユリ だって、あなたが…

頌一郎 僕は亡命はしない

サユリ ダメよ！

頌一郎 しないよ！ まったく。目が覚めなかったらどうなったことか。

サユリ 分かっているの？ 亡命しないと、戦争に行かなきゃ／いけなくなるのよ？

頌一郎 だからこそ、逃げるわけにはいかないんだよ

サユリ 殺されるかもしれないのよ！

頌一郎 分かっているよ！

サユリ わかっているでしょ！

まれ え、頌一郎さんは納得してたんじゃ……？

頌一郎 するわけないでしょう。

まれ (高山に) どういうことですか？

高山 それは、その……

まれ 説明してください！

高山 あー……

頌一郎 睡眠薬なんか飲ませて、寝てるうちに出国しちゃう計画だったんでしょ？

まれ え！？ そんなの拉致じゃないですか！

高山 いや、あの、そういうわけでは

頌一郎 ぼんやり聞こえてましたから。夢うつつで。

高山 あー……

サユリ だから言ったじゃない。薬が効きにくいのよ

まれ 高山さん、どういうことなんですか！

頌一郎 いいんだよ。高山さんは、ちゃんと加減してくれたんだから。目が覚めるように。

高山 えっ

頌一郎 ですよね？

サユリ そうなの！？

高山 (身振りで否定する)

頌一郎 どうせ母さんが無理を言ったんでしょ。本当に申し訳ございませんでした。

高山 あ、いや……まあ……

頌一郎 高山さんが、両親に逆らえないのはわかっていますから。ご迷惑をおかけしました

高山 あ、いえいえ、そんな

頌一郎 さ、母さん。もう諦めて帰ろう。亡命なんかしちやダメだよ

サユリ なに言っているのよ！ いま逃げないと本当に巻き込まれるわよ、戦争に

頌一郎 巻き込まれるんじゃない。これは僕たちの戦争なんだから

サユリ 何を……(ばかなこと言っているの)

まれ そうですよ！ 頌一郎さんは出征する、大野財閥は戦争に協力する！ これで必ず勝てる

んですから！

サユリ 勝てるわけないでしょう！ (高山に) ねえ？

高山 えっと……

頌一郎 国家総動員法を以って挙国一致体制をとれば、有利な条件で講和に持ち込める、ですよ
ね？

高山 はい。軍の公式見解としては

サユリ 鵜呑みにしちゃダメよ。嘘ばかりなんだから

頌一郎 僕たちも検証したけど、でたらめな見通しではないよ。

サユリ 甘いのよ！ でたらめな軍人が仕切ってるんだから

まれ 軍人さんは命がかかってるんです！ でたらめなんか言うはずありません！

サユリ だからそれが甘いの！ この人（高山）見てみなさいよ！

まれ ？

頌一郎 ？

高山 ……

まれ 立派な軍人さんですよ

頌一郎 うん

高山 あーいやいや、でもですよ、国家総動員法は成立しないみたいです。挙国一致体制が採れない以上、戦局は苦しいと言わざるを得ません。ですから、大野家の皆様には逃げておいていた方がいいのではと／思うのですが

頌一郎 どんな形であれ、挙国一致体制が採ればいいんですよ？

高山 ええ、まあ。

頌一郎 僕はそのために軍に志願したんです。僕が軍に居れば……母は協力するでしょう。反戦派の代表格である大野財閥が主戦派に回れば、ほぼ挙国一致体制と言えるのでは？

高山 ……確かに

サユリ ダメよ、ダメダメ！ 勝ち負けなんて問題じゃないの！ あなたを危険な目に遭わせたくないの！

頌一郎 僕一人の危険なんてどうでもいいんだよ！ この国の存亡がかかってるんだから

まれ その通りです！ さすが頌一郎さん！

サユリ （まれに）あなた、本当にこれでいいの？ 信じられない

まれ これが頌一郎さんの意志です。頌一郎さんは、卑怯者として生きることより、英雄になることを選んだんです。そういう方だから、私は頌一郎さんが好きなんです。

サユリ 殺されちゃうかもしれないのよ！？

まれ その時は、私は誇りに思うようにします。

頌一郎 ありがとうございます。

サユリ ……もういい！ わかりました！！ 勝手に死ねばいいじゃない！！

頌一郎 母さん！

サユリ 私がおかしいんでしょ？ 息子に生きてほしいっていう、私のアタマがおかしいんですよ！？ もうどこにでも行っちゃえばいいのよ！

サユリ、奥へ引っ込む

頌一郎 母さん！

頌一郎、後を追う。高山とまれ、しばしその後ろ姿を見送る

高山 ……頌一郎さんは、あんなふうにお考えだったんですね

まれ ええ。真面目な方ですから。

高山 いやー、会長の若いころみたいでしたね

まれ そうかなあ

高山 しかし、まれさんも立派ですね

まれ なにがですか？

高山 恋人が死んでも誇りに思う、なんてなかなか言えませんよ。いくら頌一郎さんの意志とは言え。

まれ 死なないですよね？

高山 え？

まれ だって、大野財閥の御曹司ですよ？ 前線になんて行かないでしょ？

高山 それは……まあ……

まれ 死なれちゃったら困りますよ。まだ入籍してないのに

高山 はあ

まれ だから高山さん！ 万が一もないように、しっかり安全な任務に就かせてくださいね！

高山 それはもちろん、努力しますが……

まれ 私も肩身狭いんですよ。周りの人けっこう出征してるのに、嫁ぎ先が反戦派でしょ？ 非国

民とか売国奴とか言ってくる人いるんですよ。ほんと最悪。

高山 それは……よくないですね。

まれ 私だけじゃなくて、ママやパパまであれこれ言われて。だから頌一郎さんには、英雄になって欲しいんです。

高山 英雄？

まれ そう！ 我が国大勝利の最後のピース！ 大野財閥に参戦を決意させた救国の英雄、です！

そうなっちはじめて、私のシンデレラストーリーは完成するんです。

高山 へー……

まれ お金だけあったって、幸せになんてなれませんから。みんなにすごいね、偉いねって思ってもらわなきゃ。ママやパパを見捨てて、自分だけお金持ちになったって。

高山 ……

まれ そう思いませんか？

高山 私は……まあ、会長や奥さまに認められたいとは思いますが……

頌一郎がもどってくる

高山 あ、どんな様子ですか？

頌一郎 ダメです。ヤケ酒はじめました。

まれ あー……

頌一郎 ああなっちゃうとね、飲みつくすまでは口きいてくれませんか

高山 頌一郎さんは、どうしても軍に行きたいんですね？

頌一郎 はい。それが僕の、使命だと思ってます。

高山 そうですか。そしたら、どうでしょう。まれさんと奥さまだけ亡命していただくのは。

頌一郎 え？

まれ いやですそんなの！

高山 でも頌一郎さん、心配じゃないですか？ まれさんが本土に残るといふもの

頌一郎 ……

高山 挙国一致体制になっても、必ず苦しい戦いになります。物資は不足するし、本土が攻撃される可能性だってあります

頌一郎 確かに

高山 お二人には安全な場所に居ていただいた方が、安心じゃないですか

まれ 私は頌一郎さんのそばにいます！

高山 勝つまでですから！ 勝ったら、戻って来ましょう。いえ、最初から行ってなかったことにしましょう！

まれ え？

高山 奥さまはともかく、まれさんが亡命していたことに気づく人はいません。

まれ ……

頌一郎 でも、それだと大野グループの戦争協力ができません

高山 軍が接収するという形にできます。普通なら反発されますが、頌一郎さんが軍にいるのなら、世論は納得するでしょう。

頌一郎 ……

まれ 私、嫌だからね？ 頌一郎さんと離れるなんて

頌一郎 どうせ出征したら離れ離れだよ。だったらいっそのこと安全な／場所にいてもらった方が

サユリが現れる

サユリ 高山さん！ ウイスキー三本しかないの！？

高山 あーもう

サユリ 全然足りないわよ／わかってるでしょあなた！

高山 我慢してください！ お酒よりも水を積まなきゃいけないんだから！

サユリ でも／私がお酒好きなの知ってるんだから気を利かせて多めに用意してないと

高山 二週間海の上なんですよ？ ウイスキーで顔洗うおつもりですか！？

サユリ だからっもうちょっと／用意してくれてもいいじゃない

高山 我慢してください！

頌一郎 ちょっとまってちょっとまって

サユリ なによ

頌一郎 なんで高山さんに聞いているの？ 酒がどうか水がどうか……

サユリ なんであって……

高山 あ……

まれ やっぱりそういう／ことなんですか！？

高山 動かないでください！

高山、銃を抜き出口の前に立ちはだかる

頌一郎 高山さん……

高山 知られてしまった以上、ここから出すわけにはいきません。3人も、このまま亡命していただきます

まれ そんな……

頌一郎 言いませんから！ 誰にも！

高山 信じますよ、信じてますけど！

頌一郎 だったら

高山 危険すぎるんです！ 見逃し見落としなら処分で済みます。ですがこれは死刑です。亡命の手引きは死刑です！

まれ 頌一郎さんだけでも

高山 ダメです！ どうか！ わかってください！

高山、懇願する

高山 私の、一生に一度のお願いです！ 私はただ、大野家に恩返しをしたいんです！ 貧乏から救い出してくれた、会長の思いに応えたいんです。みんなで逃げて、平和に暮らしましょうよ！
ね？

サユリ そうよ。戦争なのよ？ 逃げれる人から逃げればいいじゃない

頌一郎 そんなわけにはいかないんだよ

サユリ どうして

頌一郎 無責任じゃないか

サユリ なんでよ。戦争なんて殺し合いよ？ やりたいひとにやらせてればいいの！

頌一郎 殺し合いがしたい人なんていないよ

サユリ いるじゃない！ こんなにたくさん。そこにだって（まれを指し）

まれ 私は別に、戦争したいわけじゃ／ないです

サユリ 嘘つくんじゃないわよ。

頌一郎 まれさんは故郷の島を追われてるんだよ？ 取り返したいって思うのは当たり前じゃないか

サユリ いいじゃない！ 生きてさえいれば！ どこに住んだって一緒でしょ！

まれ 簡単に言わないでください

サユリ どうにでもなるでしょう！ 現にこうして、うちで雇ってあげてんだから！

まれ それは……感謝してますけど

頌一郎 家や仕事を失った人は、まれさんだけじゃないんだよ。

サユリ うちの会社だって、ホテルも港も全部とられたじゃない。あの島の。

頌一郎 それで、僕らの生活は何か変わった？

サユリ 変わったわよ。ほら……カボスだって届かなくなっちゃったし、あなたの好きなデコポンド
ってもう何年も食べてないでしょ？

頌一郎 ……

サユリ だから、その、そんなもの取り返すために戦うなんて馬鹿げてるって言いたいのに！

まれ 馬鹿げてますか？

サユリ 馬鹿げてるわよ！ あんな島の一つや二つ、あげちゃえばいいの！

まれ あげちゃう？ 私の兄は、あの島で死にました。あの島を守るために、戦って死にました。

あんな島ってなんですか。あげちゃってもいい島なら、なんで兄は死ななきゃいけなかったんですか。

サユリ さっさと逃げればよかったのよ。

まれ 逃げられるわけじゃないですか！ 家も、仕事も、全部あの島にあるんですよ？ 裏切

って逃げたなんて言われたら、どうやって生きていけばいいんですか！

サユリ でも、こうしてちゃんと生きていけるじゃない

まれ だったら、みんなを助けてください！ 戦争から逃げてきたひと全員！ 全員大野家で面

倒みてください！ そう約束してくれてたら……兄だって……

高山 しかしまれさん、お気持ちはわかりますが、それは無理です。ですからせめて、ご縁があつ

た人だけでも助かって欲しいんです。どうか、頌一郎さんと逃げてください。

サユリ え、連れてくの……？

高山 この期に及んで渋らんでください！！

まれ ……

高山 ご両親は、私がなんとかしてお連れします。それまで、向こうで頌一郎さんと／待っててく

ださい

頌一郎 僕は行きませんよ

高山 頌一郎さん！

頌一郎 高山さん。拳国一致体制が採れば勝てるんですよ？

高山 はい、ですが／このままでは必ず負けます

頌一郎 採れなかった場合は負けるってことですよね

高山 ……そうです

頌一郎 なら、僕が逃げたら負けるってことじゃないですか。一億の国民が犠牲になるってことじゃないですか。そんな無責任なこと、僕にはできません。

高山 できなくても、逃げていただきます！ 秘密を知った以上は（外に出すわけに行きません）

頌一郎 逃げなければ、僕を殺しますか？

高山 それは……

サユリ 頌一郎さん！ もうわかったから！ この子も一緒に連れてくから！

頌一郎 そういう問題じゃないんだよ母さん！

サユリ ……

頌一郎 母さんいつも言ってたよね？ 人間は、自由で、平等で、すべての人に幸せに生きる権利が

あるって

サユリ そうよ。だから、戦争なんかしちゃいけないの

頌一郎 だったらなんで、まれさんのお兄さんは死んで、僕は生きてるの？

サユリ ……え？

頌一郎 なんでお兄さんが命を賭けたものが、僕らにとってはカボスとデコポンなの？

サユリ それは、たまたま生まれた場所が／違っただけで

高山 頌一郎さん！ 理想はどうあれ、現実到我々とあなたは違うんです

頌一郎 そんなはずはないじゃないですか。人間は平等なんだから

高山 ですが…

頌一郎 だから僕は考えたんです。ずっと考えてたんですよ

サユリ 何を？

頌一郎 僕が、なに不自由なく暮らしてる理由をだよ

サユリ 平和に暮らすのに理由なんて要らないでしょ

頌一郎 要るよ。僕がのうのうと生きるために、何人の人が血と汗を流してると思ってるの？ まれ

さんだって、高山さんだって。

サユリ そんなの…

頌一郎 (高山に) 戦争が始まって、やっと答えが出たんです。今こそ、国民の皆さんに恩返しをするときなんだって。

高山 恩返し…？

頌一郎 それで国がまとまるなら、勝てるなら、最高じゃないですか

サユリ なに言ってるのよバカじゃないの。英雄ごっこがしたいの？ あなたは。

頌一郎 英雄じゃないなら、なんで僕は特別扱いされてるんだよ

まれ そうですよ！ 頌一郎さんは英雄です。英雄になるんです！

サユリ 犠牲になる、ってことでしょ！

頌一郎 もう大勢犠牲になってるんだよ！ だから勝たなきゃいけないんだよ！

高山 ですが、一人の力で勝てるほど、戦争は甘くありません！

頌一郎 でしたら、一緒に戦ってください。それが、大野家の人間の使命です。

高山 大野家の…？

コンテナの出入口を叩く音がする

役人(声) 高山大佐！ いらっしやいますか？

高山、三人を奥の部屋に匿い、出入口を窺う

役人 高山大佐？

役人が入ってくる

高山 なんだ、君か。なんの用だ。

サユリ、まれ、頌一郎も奥から出てくる

役人 さきほど国会で、国家総動員法の見送りが決まりました。

高山 見送るか

役人 はい。ダメでした。気にされてたご様子でしたので、お耳に入れておいた方がよいかと。

高山 そうか。ありがとうございます。苦しくなるな

役人 はい。

頌一郎 (まれに) やっぱり、行かなきゃね

役人 あ。大野頌一郎どの！ 出征おめでとうございます！

頌一郎 出征？

役人 ？

高山、懐から召集令状を取り出し、頌一郎に渡す

サユリ ちょっと！

頌一郎 ああ、来てたんですね

まれ おめでとうございます

頌一郎 ありがとうございます。

頌一郎、封を開ける

頌一郎 東部戦線か。まれさんの島の方だ

サユリ えっ！？

まれ 高山さん！

高山 (役人に) 君、頌一郎さんが最前線はまずいだろう！

役人 あ、では

頌一郎 やめてください

高山 しかし

頌一郎 特別扱いされたら、意味ないじゃないですか

まれ でも、でも頌一郎さんまで死んじゃったら私(生きていけない)

頌一郎 大丈夫。必ず生きて帰ってくるから

サユリ ダメ！ 絶対ダメ！！ 高山さん！！

頌一郎 母さん！ やめてよ！（役人に）ごめんなさい、ほんとに

役人 はあ……

サユリ だってそんなの絶対ダメじゃない！ なんで頌一郎さんが／前線に行かなきゃいけないの

頌一郎 母さん！（役人に）行きましょう。外で（今後のこと教えてください）

役人 はあ

まれ ちよっとまって頌一郎さん！

頌一郎 戦って、帰ってきたら、ようやく僕はまれさんたちの家族になれると思うんだ。本当の意味で。

まれ そんな……

頌一郎 だから、行かなきゃ。行ってくる。

頌一郎、役人、出ていく

高山 本当の、家族……

サユリ （高山に）連れ戻して！ 早く連れ戻して！！ ねえ、わかってるの！？

高山 わかっています！ この高山、ぜったいに大野家を裏切ることはありません

サユリ 頼んだわよ？ ぜったいよ？

高山 はい。……会長に、お世話になりましたとお伝えください

サユリ え……？

高山 まれさん

まれ ？

高山、まれに敬礼し、出ていく

サユリ どういう意味？ どういう意味よ！！

まれ、取り乱すサユリに寄り添う

サユリ あなたが……あなたのせいで……

おしまい